



笛南中だより

甲府市立笛南中学校
文責 校長 七澤 聡

全国学力・学習状況調査結果

令和5年度の全国学力・学習状況調査は、全国の中学3年生と小学校6年生を対象に、4月18日（火）に実施されました。本年度は、例年実施されている「国語」「数学」に加え、「英語」が調査対象に加わり、3教科での実施となりました。また、生徒の生活習慣や学習環境等に関する「質問紙調査」についても例年通りの実施となりました。調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態等を明らかにすることにより、今後の指導改善に役立てることです。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせするとともに、HPにも掲載いたします。



本校の状況

本校の平均正答率は、「国語」は全国・県平均とほぼ同等、「数学」「英語」は全国・県平均を大幅に上回る結果となりました。

	国語	数学	英語
山梨県平均正答率	70	50	43
全国平均正答率	69.8	51	45.6

各教科の状況

国語

<分析結果>

- ・「思考・判断・表現」が「知識・技能」の正答率を下回っている。自分で考え表現する力に課題があると読み取ることができ。意見と根拠など情報と情報との関係について理解できているかをみとる問題の正答率が県・全国の平均を下回っている。
- ・短答式や記述式の問題は無解答率が高くなるが、本校の無解答率は県・全国と比べても低いので、諦めずに最後まで取り組もうとする姿勢が感じられる。ただし、問題が後半にいくにつれ無解答率が上がっているため、時間配分についての指導が必要であるかもしれない。

<教科における主な改善点>

- ①小学校から中学2年生までに習ってきた漢字について小テストを行い、漢字の読み書きの力をつけさせていきたい。また、歴史的仮名遣いや古語の意味など、古典の知識に関して小テストをするようにして知識の定着を図っていきたい。
- ②比べ読みの活動などを積極的に取り入れ、何かと何かを結びつけて思考する力を伸ばしていきたい。
- ③自分の考えを持ち、それを表現することを苦手とする生徒が多いので、毎単元、自分の考えを書くなり話すなりして表現する活動を設けていく。

数学

<分析結果>

- ・領域別に見ると「図形」の正答率だけが全国・県平均を下回っている現状がある。図形の証明においては、用いられている条件は理解できているが、根拠を示すことができない部分に課題が見られる。

<教科における主な改善点>

- ①図形領域の基礎的内容が身につけていないことが明白かつ大きな課題である。基本の確認を中心とした指導、小テストや家庭学習などに粘り強く取り組ませたい。
- ②思考力を要する問題については、山梨県・全国を上回っているが、そのポイントは高いとはいえない。基礎基本事項を身につけさせ、過程を大切に問題をとくということを意識させたい。文章題は、問題文が多い傾向があるが、そこに苦手意識を持たせないように指導したい。理論的に過程を追うことを重視しながら学習を進めたい。

英語

<分析結果>

・聞くことや読むことにおいて大まかな内容を理解する力はあると思われる。書き手の意見に対して自分の意見を述べる問題や事実や自分の考えを整理しまとまりのある文章を書く問題については、無解答が全国よりも低かった。問われたことに対して、わからないと諦めてしまわずに、粘り強く取り組もうとする態度は評価できる。読むことにおいても、聞くことにおいても、大まかな内容をつかむことはできるが、正確に情報をつかむことは苦手の生徒が多いことがわかる。「話すこと」に関しては、分析するためのデータとして正確さに欠くものがあったので、今回は分析まで至らなかった。しかし、「話すこと」は重要事項なので授業で積極的に取り入れていく。

<教科における主な改善点>

- ①基本的な語彙や表現を定着させ、それらを使って話したり書いたりする活動を授業に取り入れていきたい。
- ②場面に応じて適切な表現を正しく使えることを問う発問を授業やテストの中に意識して入れていきたい。
- ③デジタル教科書を効果的に使って家庭学習に「音読（速読）」を習慣的に入れていきたい。
- ④教科書で取り上げられている教材のテーマが多岐にわたっているので、教科書の内容を理解した後で、それについて自分の考えを書く活動を意識的に設定していく。

質問紙調査の結果について

・今回の質問紙調査は、例年と同様に学校や家庭における学習や生活の様子について、72の質問項目により実施されました。結果を詳細に見ていくと、72の項目の内、33項目が全国や県よりも良好な状況、29項目がほぼ同等な状況、10項目については改善が必要な状況でありました。また、他との比較ではなく本校生徒の特徴的な様子も明らかとなりましたので以下にご報告いたします。

質問紙調査の主な特徴

- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、約7割の生徒が夢や目標を持っていると回答している。
- ・「人が困っている時に進んで助けますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対しては、9割以上の生徒が肯定的な回答を行っており、正義感の強い集団であると思われる。その反面、「自分にはよいところがあるか」「学級で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問には、約3割の生徒が否定的な回答をしており、自己肯定感の弱さを感じる面もある。
- ・「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問には約6割の生徒が否定的な回答だったが、4月の調査であり今は改善していることに期待したい。（今後調査を予定）
- ・「新聞を読んでいますか」の質問では、全国・県平均同様8割の生徒が読んでいないと回答、新聞を購読しない家庭が増えていること、そして、新聞以外での情報収集が可能な現代社会を象徴したものとなっている。

質問紙調査からの改善点

- ・男子26名、女子13名（合計39名）とバランスが悪い集団ではあるが、日々の学校生活様子や修学旅行、学園祭の取組等を見ていると非常に仲間意識が強く、とても仲がよい集団だと感じる。特にそれぞれの場面でリーダー的存在となる生徒がいるので、切磋琢磨できる取組が印象的である。しかし、調査分析でも提示したように、自己肯定感の弱い生徒も数名おり、強いリーダーについていだけの消極的な面の改善を生徒一人一人に寄り添いながら行っていきたい。
- ・コロナ感染症が5類となり制限のない取組ができるようになった今年度は、生徒の自主的主体的な活動を重視し、教育課程が実施されている。その一つが、今回行われた学園祭であり、生徒の創意工夫のもと、取り組めたことをまずは評価したい。今年度ちょうど折り返し地点となり、卒業まで残り半年となる。3年生にとって進路決定が最重要事項となり、学力の向上とともに、面接等への対応のため自己表現力の向上も図りたい。
- ・ICT機器を活用した授業も3年目を迎え、授業での活用はもちろん、家庭学習においてもeライブラリを積極的に活用している。話し合い活動やプレゼンテーション、研究のまとめ等あらゆる場面での活用が進められており、ICT機器活用が定着しつつある。今後も引き続き、計画的に活用を続け、更なる文房具化を図りたい。